



学校教育目標「笑顔いっぱい ともに輝く小山台」

# 小山台

学 校 だ よ り  
11月号  
令和8年10月30日  
横浜市立 小山台小学校

## 「学びの種は、子どもたちの毎日のなかに」

校 長 堀江 公子

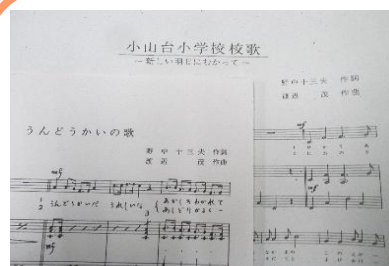
秋の深まりとともに、日ごとに夕暮れが早くなり、季節の移ろいを感じる頃となりました。先日開催した運動会は、天候の影響により二日に分けての実施となりましたが、平日の開催にもかかわらず多くの保護者や地域の皆様にご来校いただきました。子どもたちへの温かい拍手とご声援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

当日は、子どもたちの真剣なまなざしと輝く笑顔があふれる一日となりました。1・2年生はかわいさいっぱいの演技で会場を和ませ、見ているみんなが笑顔になりました。3・4年生は息の合ったダンスで観る人を魅了し、太陽に照らされたポンポンと子どもたちの笑顔がキラキラして眩しかったです。5・6年生のソーラン節は、一人ひとりの思いを込めた真剣さを感じ、高学年としての力強さと頼もしさを示してくれました。また、リレーや応援合戦、係活動でも、それぞれが自分の役割に責任をもち、仲間と協力しながら運動会を支えていました。雨のため二日間に渡った予想外の状況にも負けず、一人ひとりが「よし、やるぞ」という気持ちで取り組んだ姿に、大きな成長を感じました。



また、そんな運動会に向かう日々のなか、リレー練習を応援していた1年生の数名の児童が、「運動会の歌って、いつできたんだろう」「誰が作ったのかなあ」とつぶやきました。そこから始まったのが「うんどうかいのうた なぞときたい!」です。「体育館に校歌をつくった人がかいてあったよ」「小山台小にずっといる先生に聞いてみよう」「お母さん、小山台小に通ってたよ!」と、体育館に行って確認したりお家の人に尋ねたり、小山台小学校の先生だった用務員さんにインタビューしながら調べていきました。毎日のように休み時間、「謎解きをしに来ました!」と笑顔で校長室のドアをノックし、隊員集合!活動開始です。

調べた結果、運動会の歌は昭和56年に校歌とともに発表されたこと、校歌と運動会の歌は同じ人が作詞・作曲をしていたことが分かりました。さらに子どもたちは、「言葉と曲をつくった人は、名前が違うから別の人だ」と思っていたけれど、実は同じ人だった!と新たな発見に目を輝かせていました。



(野中十三夫は作曲者のペンネーム)

学びは教室の中だけにあるものではありません。運動会の練習や友達との会話、学校生活のさまざまな場面のなかに、学びの種はたくさん隠れています。子どもたちは、その小さな疑問を大切にしながら、自ら考え、行動し、学びを広げていく力をもっています。

運動会という大きな行事を通して、仲間と協力することの大切さや最後までやり抜く力を学んだ子どもたち。そして、その過程で生まれた一つの疑問から、自分たちで調べて答えを見つけ出した1年生の姿。どちらも子どもたちの確かな成長の証です。

これからも本校では、子どもたちの周りに広がる学びの種を大切にしながら、豊かな学びにつながる教育活動を進めてまいります。

子どもたちの学校生活の様子については、小山台学校のホームページ「学校日記」に随時掲載しています。ぜひご覧ください。

